



Sun Fire™ V480 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 816-2296-12
2002 年 10 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun Fire, SunSolve Online, SunVTS, OpenBoot, Sun StorEdge, Solaris のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire V480 Server Product Notes
Part No: 816-0905-14
Revision A



Sun Fire V480 サーバーのご使用にあたって

このマニュアルは、Sun Fire™ V480 サーバーに適用されます。このマニュアルには、ほかのマニュアルを発行したあとで判明したインストールおよび機能、既知のシステム制限に関する重要な情報が記載されています。角括弧内の数字は、サン内部のバグ識別番号です。

最新マニュアルへのアクセス

次の URL にアクセスすると、各言語対応版を含む、サンの各種マニュアルを参照および印刷することができます。

<http://www.sun.com/documentation>

また、次の URL にアクセスすると、Sun Fire V480 サーバーのマニュアルを参照および印刷することができます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/>

このサイトを定期的にチェックして、このマニュアルの最新版など、Sun Fire V480 サーバー製品のマニュアルの最新版を確認してください。

システムのソフトウェア要件

Sun Fire V480 サーバーには、Solaris™ 8 2/02 オペレーティング環境か、このサーバーをサポートするそれ以降の Solaris のリリースが必要です。使用している Sun Fire V480 サーバーに適切なバージョンのオペレーティング環境がインストールされていることを確認するには、/etc/release ファイルを調べてください。このファイルに「Solaris 8 2/02」という文字列か、これ以降の互換性のある Solaris のリリースを示す文字列が含まれていることを確認します。

ソフトウェアの必須および推奨パッチ

この節では、Sun Fire V480 サーバーの必須および推奨ソフトウェアパッチの一覧を示します。これらのパッチはご購入先から入手するか、次の URL の SunSolve OnlineSM Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

パッチのインストール手順については、各パッチに添付される README ファイルを参照してください。

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境の必須パッチ

Sun Fire V480 で Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を使用する場合の必須パッチ

パッチ ID	説明
*112396-01 以降	SunOS 5.8 : /usr/bin/fgrep コマンドパッチ
*108987-08 以降	SunOS 5.8 : patchadd および patchrm コマンドパッチ
111883-10 以降	Solaris Ethernet ドライバパッチ
109962-07 以降	FC-AL ディスクドライブのファームウェアパッチ
108528-15 以降	SunOS 5.8 : Kernel Update パッチ
112953-02 以降	SunOS 5.8 : Kernel Update 補助パッチ

*パッチ 112396 およびパッチ 108987 をインストールしてから、ほかのパッチをインストールする必要があります。

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境の推奨パッチ

注 — 一部のパッチは契約ユーザーにだけ提供されます。SunSolve Online Web サイトからパッチをダウンロードできない場合は、購入先に問い合わせてください。北米のユーザーは、1-800-USA-4SUN までご連絡ください。

Sun Fire V480 で Solaris 8 2/02 オペレーティング環境を使用する場合の推奨パッチ

パッチ ID	説明
111500-06 以降	Sun™ Remote System Control パッチ
112336-01 以降	SunVTS™ 4.6 パッチ
111792-04 以降	Solaris 環境監視パッチ
111793-03 以降	Sun Fire V480 prtdiag コマンドパッチ
*111412-08 以降	SunOS 5.8 : Sun StorEdge™ Traffic Manager (MPxIO) パッチ
*111413-07 以降	SunOS 5.8 : luxadm および liba5k、libg_fc パッチ
*111095-08 以降	SunOS 5.8 : fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ
*111096-04 以降	SunOS 5.8 : fcip ドライバパッチ
*111097-10 以降	SunOS 5.8 : qlc ドライバパッチ

* パッチ 111412 および 111413、111095、111096、111097 には、SUNWsan (SAN Foundation Kit) パッケージが必要です。SUNWsan パッケージは、Sun ダウンロードセンターからダウンロードできます。URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN のソフトウェアおよびファームウェアのアップグレード版をダウンロードしてください。

まず、SUNWsan パッケージをインストールしてから、111412、111413、111095、111096、111097 の順にパッチをインストールします。すべてのパッケージをインストールするまで、システムを再起動しないでください。

Solaris 9 オペレーティング環境の必須パッチ

Sun Fire V480 で Solaris 9 オペレーティング環境を使用する場合の必須パッチ

パッチ ID	説明
113184-01 以降	SunOS 5.9 : Kernel Update 補助パッチ
109962-07 以降	FC-AL ディスクドライブのファームウェアパッチ
113034-02 以降	OpenBoot™ ファームウェアパッチ

Solaris 9 オペレーティング環境の推奨パッチ

注 — 一部のパッチは契約ユーザーにだけ提供されます。SunSolve Online Web サイトからパッチをダウンロードできない場合は、購入先に問い合わせてください。北米のユーザーは、1-800-USA-4SUN までご連絡ください。

Sun Fire V480 で Solaris 9 オペレーティング環境を使用する場合の推奨パッチ

パッチ ID	説明
113500-01 以降	SunVTS 5.0 パッチ
113044-01 以降	SunOS 5.9 : cfgadm fp コマンドプラグインライブラリパッチ
112764-02 以降	SunOS 5.9 : Sun Quad Fast Ethernet qfe ドライバパッチ
112817-03 以降	SunOS 5.9 : GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ
*113039-01 以降	SunOS 5.9 : Sun StorEdge Traffic Manager (MPxIO) パッチ
*113040-02 以降	SunOS 5.9 : fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ
*113041-01 以降	SunOS 5.9 : fcip ドライバパッチ
*113042-02 以降	SunOS 5.9 : qlc ドライバパッチ
*113043-01 以降	SunOS 5.9 : luxadm および liba5k、libg_fc パッチ

* パッチ 113039 および 113040、113041、113042、113043 には、SUNWsan (SAN Foundation Kit) パッケージが必要です。SUNWsan パッケージは、Sun ダウンロードセンターからダウンロードできます。URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN のソフトウェアおよびファームウェアのアップグレード版をダウンロードしてください。

まず、SUNWsan パッケージをインストールしてから、113039、113040、113041、113042、113043 の順にパッチをインストールします。すべてのパッケージをインストールするまで、システムを再起動しないでください。

Sun Fire V480 サーバーの最新の OpenBoot ファームウェアパッチ

システムの OpenBoot ファームウェアイメージは出荷時点で最新のものですが、新しいバージョンのファームウェアが存在する可能性があります。次のどちらかの方法を使用して、システムの現在の OpenBoot ファームウェアのバージョンを確認してください。

Solaris オペレーティング環境が動作している場合は、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/prtconf -v
```

または、

ok プロンプトから、次のコマンドを入力します。

```
ok .version
```

現在システムにインストールされている OpenBoot ファームウェアのバージョンを確認したら、OpenBoot ファームウェアの最新バージョンと比較してください。

OpenBoot ファームウェアのパッチ ID は、113034-02 以降です。使用しているシステムに応じた最新パッチは、ご購入先に問い合わせるか、次の URL の SunSolve Online Web サイトにアクセスして入手してください。

<http://sunsolve.sun.com>

フラッシュ更新の手順については、各パッチに添付される README ファイルを参照してください。

注 – OpenBoot ファームウェアバージョン 4.6.4 がインストールされているシステムの場合は、パッチ 113034-02 が必須です。Solaris 9 オペレーティング環境のインストールまたはアップグレードを行う前に、このパッチをインストールしてください。

インストールサーバーでの ce Ethernet ドライバの更新

Solaris 8 2/02 オペレーティング環境用の ce Ethernet ドライバが更新されました。ネットワークインストールを実行する場合は、インストールサーバーのネットインストールイメージにパッチ 111883-10 以降を適用してから、クライアントシステムをインストールする必要があります。

1. 111883-10 以降のパッチをダウンロードします。

パッチの入手先については、2 ページの「ソフトウェアの必須および推奨パッチ」を参照してください。

2. インストールサーバーの起動イメージにパッチを適用します。次のコマンドを入力します。

```
# patchadd -C <Install-Image-Path>/Solaris_8/Tools/Boot/ <patch-path>
```

3. クライアントシステムの ok プロンプトで boot net コマンドを入力して、インストールを開始します。
4. インストールが完了したら、新しく作成されたシステムに 111883-10 以降のパッチを適用します。

JumpStart のインストールに関する問題

Sun Fire V480 サーバーに搭載された内蔵ディスクのデフォルトのコントローラ ID は、c0 ではありません。ディスクデバイス名 c0t0d0 または c0t1d0 を構成ファイルで使用すると、JumpStart™ ソフトウェアのインストールが失敗する可能性があります。

Sun Fire V480 サーバーに JumpStart をインストールする前に、内蔵ディスクのコントローラ ID がシステムの構成と一致しているか (c1t0d0 など) を確認してください。

必要に応じて、構成ファイルのディスクデバイス名を適切なコントローラ番号に変更してから、JumpStart のインストールを実行してください。

RSC マニュアルの場所

Solaris オペレーティング環境およびサブリメント CD のソフトウェアをインストールすると、Sun Remote System Control (RSC) マニュアルのオンライン版へのアクセスが可能になります。Solaris オペレーティング環境内の次の場所に、『Sun Remote System Control 2.2 ユーザーマニュアル』の PDF 版があります。

```
/opt/rsc/doc/<locale>/pdf/user_guide.pdf
```

Microsoft Windows ベースの PC に RSC ソフトウェアをインストールすると、Microsoft Windows 環境内の次の場所に、適切なユーザーマニュアルが保存されません。

```
C:\Program Files\Sun Microsystems\  
Remote System Control\doc\<locale>\pdf\user_guide.pdf
```

RSC のマニュアルは、サーバーと同梱される Sun Fire V480 Documentation CD にも収録されています。

Sun GigaSwift Ethernet Adapter の マニュアル

『Sun GigaSwift Ethernet Adapter Installation and User's Guide』(Part No. 816-1702-11) が更新されました。前版でのインストール時のエラーおよび曖昧な表現は訂正されています。

このマニュアルでは、主に Sun GigaSwift Ethernet UTP Adapter と Sun GigaSwift Ethernet MMF Adapter の取り付けおよび使用方法について説明しています。また、システムの Ethernet デバイスドライバソフトウェアの構成方法についても記述されています。

『Sun GigaSwift Ethernet Adapter Installation and User's Guide』では、`/platform/sun4u/kernel/drv` ディレクトリの `ce.conf` ファイルの作成方法についても説明しています。オンボードのネットワークインタフェースを Sun Fire V480 サーバー用に構成する場合は、このマニュアルに記述された方法を使用することをお勧めします。`/etc/system` ファイルを使用した Sun GigaSwift Ethernet アダプタドライバのパラメタの設定は、サポートされていません。

このマニュアルは、次の URL から入手できます。

```
http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/  
Network_Connectivity
```

サンが認定していない PCI カードを Sun Fire V480 プラットフォームで使用する 場合の注意事項

システムを確実に動作させるには、サンによってこのプラットフォーム上での使用を認定されている PCI カードおよび関連するドライバを Sun Fire V480 システムに取り付けることが非常に重要です。カードとドライバのソリューションがサンに認定されたものでない場合、特定のバス上でカードとドライバ間に相互作用が発生し、システムパニックやその他の否定的な結果につながる可能性があります。

認定された PCI カードおよび Sun Fire V480 システムの構成に関する最新情報については、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、次の URL の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/io>

ファントレーはホットプラグ対応でない ため、システムの動作中に取り外さない

CPU ファントレー (FT 0) および PCI ファントレー (FT 1) は「ホットプラグ対応」の部品ではないため、システムの動作中にはどちらのファンも取り外さないでください。システムの電源が入っているときにファンを取り外そうとすると、怪我をする危険性があります。

M6 ねじを使用する必要があるキャビ ネットへのサーバーの取り付け手順

M6 ねじを使用する必要があるキャビネットにサーバーを取り付ける場合は、『Sun Fire V480 サーバー設定およびラックマウントの手引き』の手順に従ってください。この手順の 10-32 ねじを使用している場所で、ラックキットボックスに入っている M6 ねじを使用します。M6 ねじには、プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用してください。正面トリムパネルに 10-32 脱落防止機構付きねじが付いている場合は、サーバーをキャビネットに取り付ける前に、そのねじを M6 ねじに交換します

新しい電気仕様

次の表に、Sun Fire V480 サーバーの電気仕様を示します。『Sun Fire V480 Server Parts Installation and Removal Guide』の付録 C および『Sun Fire V480 サーバー管理マニュアル』の付録 B に記載されている電気仕様の値を、表に示された値で置き換えてください。

項目	値
入力	
周波数	50 または 60 Hz
入力電圧	自動レンジ調節機能 100 ~ 240 VAC
最大電流 AC RMS	10 A @ 100 ~ 120 VAC 5 A @ 200 ~ 240 VAC
最大 AC 電力消費	1100 W
最大放熱量	3751 BTU/時

ソフトウェアに関する注意事項

このリリースでは、次のソフトウェアに関する問題が確認されています。ほとんどの場合回避策は必要ありませんが、必要な場合は問題点の説明に続いて回避策に関する情報が記載されています。

オンボードの Ethernet ポートは Gigabit の半二重モードで動作しない

オンボードの Ethernet インタフェースは、Gigabit の半二重 (1000HDX) モードをサポートしていません。Gigabit の全二重モードは完全にサポートされています。

SunVTS の env5test 実行時の picld エラー

SunVTS の env5test テストを実行すると、次のエラーが発生する場合があります。

```
failure to open semaphore /psvc_sema_rdwr
```

```
[4487110]
```

回避策

1. 次のコマンドを入力します。

```
# /etc/init.d/picld stop  
  
# /etc/init.d/picld start
```

2. SunVTS ソフトウェアを再起動します。

diag-switch? が true のときに
rsc bootmode -u を使用すると不適切な出力が
行われる

diag-switch? が true に設定されているときに rsc bootmode -u コマンドを使用すると、RSC コンソールへの出力が正常に開始されますが、Solaris オペレーティング環境を起動するとシリアルポートへの出力に切り換わります。 [4523025]

名称に関する注意事項

ce0 および ce1

Sun Fire V480 サーバーは、システムのセンタープレーンに、10 Mbps および 100 Mbps、1000 Mbps で動作する 2 つのオンボード Ethernet インタフェースを備えています。背面パネルにある RJ-45 コネクタが付いた 2 つのポートを使用すると、このインタフェースに接続できます。

一部のソフトウェア出力では、Ethernet インタフェースは ce0 および ce1 として表示されます。

- ce は Ethernet デバイスドライバの名前です。
- 0 および 1 は、2つのインスタンスの番号です。

hba および io-bridge は同じ意味で使用できる

POST および OpenBoot ファームウェアでは、hba および io-bridge という用語は装置識別名として同じ意味で使用できます。

マニュアルの訂正

CPU/メモリーモジュールのパーツ番号の訂正

『Sun Fire V480 Server Parts Installation and Removal Guide』の付録 F の「CPU-Side Components」の節に記載されている、CPU/メモリーモジュールのパーツ番号に誤りがあります。

CPU/メモリーモジュールの正しいパーツ番号は、F501-6334 です。

73G バイト FC-AL ディスクドライブのパーツ番号の訂正

『Sun Fire V480 Server Parts Installation and Removal Guide』の付録 F の「Front Panel Components」の節に記載されている、73G バイト FC-AL ディスクドライブのパーツ番号に誤りがあります。

73G バイト FC-AL ディスクドライブの正しいパーツ番号は、F540-5408 です。